

教養語学科目の改革について

本学では 2018 年度に教養語学カリキュラムを一新し、新しい語学プログラムをスタートさせました。今回の高等教育院通信では、3 年目を迎えた語学プログラムの最新情報、プログラムのねらいと受講生の声、今後の課題について説明したいと思います。

Language for Global Citizenship –Plant Your Own Seeds –
Self-directed, interest-driven learning in diverse learning environments

語学プログラムの最新情報

2018 年度からスタートした新しい教養語学プログラムでは、学生の興味やニーズに合わせてできるだけ自由に選択できるように、未修外国語だけでなく英語も選択必修制にしました。

選択肢が増えた分、履修が複雑になるという面があったため、新たに『語学ハンドブック』を作成しました。全新生に配布し、ランゲージセンターのホームページ上でも紹介してきましたが、「わかりにくい」というご意見もいただいたため、動画でわかりやすく説明しようと考え、2020 年 3 月にはホームページの冒頭に「語学科目案内」の動画を掲載しました。



<http://www.hum.nagoya-cu.ac.jp/~language-center/index.html>



本学の教養語学は、基本的に 1 年間で必修単位を修得できるプログラムですが、必修単位を取り終えた 2 年生以上の学生でも『英語』や『その他の言語』を一定の条件内で受講(履修・聴講)できます。上記のホームページに「教養語学の必修単位を取り終えた皆さんへ」という動画も掲載しています。

プログラムのねらいと受講生の声

本学の場合、キャンパスが分散していることや、2年次以降の専門科目との兼ね合いなどの諸要因から、基本的に1年間のプログラムとなっています。しかし、語学学習は1年間のプログラムで完結するわけではありません。1年間のプログラムで何ができるか、何をすべきかと考えたとき、私たちは、学生個人のニーズや興味、能力を尊重・重視し、主体的な学びを促す環境の中で、学生が伸び伸びと興味を追いかける場を提供することが、学生に真に学ぶ原動力を与えると考え、以下のようなことを学生が学び、感じてもらえたらと願いました。



- ・今後の人生に有益な知識・能力・視野の習得
- ・異言語・異文化への関心と理解
- ・達成感・成長の喜び
- ・もっと語学を学びたい!という継続的・発展的学びの意欲

以下は、これらの点に関連した学生たちの声の一部です。(授業評価アンケートなどより)

※上記の「語学科目案内」の動画でも学生の声を紹介しています。



この授業はとても大変だったけど、私は将来仕事で英語を使いたいので、英語でプレゼンができるようになったのは嬉しいし誇らしいです。

自分で英語を進んで勉強したり、調べる力がつきました。



映画をたくさん見ることができとても楽しかったです。もう1回受けたいくらい良い授業でした。

言葉が上手でなくても、伝えようという気持ちがあれば伝わるということがわかり、個人的な話ですが、英語が以前より話せるようになった。

スペイン語だけでなく新しい言語を学ぶことへの意欲が高まった。



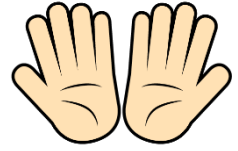
イタリアに興味があり受講を決めたが、よりイタリアのことを知りたいと思うようになった。

イタリア語の力はもちろんだし、他の人とコミュニケーションする能力も向上したと思う。

これまで私が習ってきた日本語、英語、中国語、ロシア語とどれとも違うユニークな言語を半年間学んだことで、言語の感覚・捉え方が以前より鋭くなったと感じます。アラビア語圏の地域に関心を持つようになった。



日本手話を受講してから以前より周りに敏感になりました。駅のホーム、カフェ、近所のスーパーなど、身の周りで耳の聞こえない人や手話を使っている人をよく見かけるようになりました。前も居たはずの人達にそれまで気づかなかったのは自分には関係ないことだとはじめから拒絶し、視野を狭めていたせいだと深く実感しました。手話を始めたおかげで、今まで関わろうとしなかった人達との交流が増えました。最近アルバイト先にろうの女性が2人来店され、私は手話を使って案内、注文を取ることができました。上手く伝わらず時間はかかってしまったが、注文を取り終わった後、2人からありがとうと言われて、とても嬉しく、達成感がありました。



二つの言語を一年のうちに学ぶことができるというのは非常に素晴らしいシステムであると思う。生徒側がより多くの言語に触れることによって社会的視野が広がり、知的好奇心が呼び起こされやすくなると思うからである。

これらの受講生の声は、新たな語学プログラムのねらいが一部達成できたことを示唆しているように見えます。もちろん受講生からのコメントには良いことだけでなく、「課題が多いため専門科目の課題との両立が難しい」他、改善せねばならぬ点を示してくれるものも多々ありました。プログラムのねらいを維持しながら、今後は語学担当教員間で問題点を共有し、問題の改善に取り組んでいきたいと思えます。

今後の課題

課題は山積していますが、ここでは以下の2点について触れたいと思います。

1. 語学カリキュラムの検証と改善

新たなカリキュラムがスタートしてから2年が経過し、枠組みとしては浸透してきたかと思えます。今後は教員の経験、学生の意見、カリキュラム全体の検証に基づき、さらなる質の向上と、授業の成果・魅力の発信に一層力を注ぐ必要があると考えています。

Poster for the Action in English Student Showcase. The poster features a green and red paint roller on a white surface. The text on the poster reads: "Come and join us for the Action in English Student Showcase. Showcasing Spring Semester Project Work from Nagoya City University's Language Program. Language for Global Citizenship - Plant Your Own Seeds - Self-directed, interest-driven learning in diverse learning environments." Below the main text are several small images illustrating various activities: "Improve Life Skills", "Interact Internationally", "Make a Difference in Your Community", "Raise Health/Environmental Awareness", and "Produce a Movie". At the bottom, the event details are listed: "DATES: July 17, 2019 (5:20-17:30) and July 18, 2019. LOCATION: Nagoya City University, Takikio Campus, Building 2, 3F Classrooms." A QR code and website information are also provided.

教養語学プログラムは、多くの教員（専任・非常勤）の個別の授業で構成されています。語学プログラムの質の向上は、個々の先生方の不断の改善努力の結果の集積に他なりません。改善策を考える上で、プログラムの理念の共有が肝要であることから、今後一層、理念の共通理解を深め、語学担当教員ワンチームとしてさらなる質の向上を目指します。

また、このプログラムで実行に移されているさまざまな具体的な成果を、ランゲージセンターのホームページを通して動画などで積極的に発信していきたいと考えています。そして、新入生や高校生の皆さんに、名市大の教養語学プログラムでは、実に多様なことを学ぶことができるという期待感、ワクワク感をもって入学してもらえるようにし、教員側は、その期待に応えられるような体制を築いていくという好循環を作りたいと思います。

2. 全学年にわたり語学が学習できる仕組みづくり

高等教育院は、教養語学だけでなく、全学の語学教育についても貢献が期待されています。2018年度は新旧カリキュラムが共存する中で新プログラムの立ち上げに全力を注ぎ、2019年度は1年目の経験や反省点に基づき、できるところから修正をしてきました。（個々の先生方の授業での修正はもちろんのこと、Action in English の合同発表会 Showcase についての改善、『その他の言語』の学生の希望状況に合わせた言語ごとのクラス数の調整など。）



今後、2年次以降の学生がどのような支援を求めているのか、専門科目との兼ね合いなど様々な制約のなか、高等教育院・ランゲージセンターとして何をすべきかを明らかにしていき、実現可能な策の実行を 1 歩 1 歩進めていきたいと考えています。

最後に、入学してきた学生たちが本学の語学プログラムをきっかけに、Global Citizenship としての自覚を持ち、実践的な語学力だけでなく、異言語・異文化への興味と視野を拡げ、専門分野の学修にもつながるような語学プログラムを目指していきたいと思います。今後ともよろしく願いたします。

高等教育院兼担 語学担当 日木満



事務局教務企画室より

『NCU 高等教育院通信』の最新号をお届けいたします。全学の FD 活動や各部局における取り組み、旬なトピックスなど、“教育”に関する話題を広く皆様に提供していきますので、ご愛読いただければ幸いです。

ぜひ取り上げてほしい話題などありましたら、下記までご連絡ください。